

## 熊本、宮崎における農業研究施設及び農家の施設園芸

福留紘二・福村和則・福留弘康

研修地 熊本県農業研究センター（熊本県菊池郡合志町大字栄3801）  
宮崎大学農学部附属農場（宮崎市学園木花台西1-1）  
宮崎大学農学部附属農場住吉牧場（宮崎市大字島之内）  
県立青島熱帯植物園（宮崎市青島）  
岩切農場（宮崎市青島折生迫）、外蘭農場（宮崎県佐土原町）  
ファレノプシス栽培農家（宮崎市）

日程 1995年2月15～17日

現在わが国ではビニルハウス、ガラス温室等の普及により周年野菜及び果樹が安定供給できる時代になってきた。そんななかコストの低減、省力化及び良質生産等今後の農業についての意見を各地でよく耳にする。そこで、諸問題について知見を得るため、近隣の熊本県、宮崎県で研修を行った。

### 熊本県農業研究センター

熊本県農業研究センターは農産園芸研究所、家畜研究所、い業研究所、果樹研究所のほか高原、球磨、天草各農業研究所で構成されている。農産園芸研究所野菜部で現在行われている主要な研究テーマは、1) 野菜全般の品質向上試験、2) 品種比較栽培、3) 熊本県の気候に適した品種の育成、4) 軽作業の省力化についての研究等である。

熊本県で栽培されているネットメロンの品種は、アールスメロンが70%、クレスト、その他が30%であり、全農方式ドレンベッド及び地床栽培を行っている。農産園芸研究所では、ネットメロン栽培に白色灯を用い、光が生育に及ぼす影響を調査、研究していた。また、マルハナバチによる交配試験も行われており、本交配法は指宿植物試験場のメロン栽培に導入容易な方法であると思われた。

### 宮崎大学農学部附属農場及び宮崎県立青島熱帯植物園

宮崎大学学内農場では、技官7名が作物部（水稲中心）、果樹部（主要種は日向夏、温州ミカン、クリ、カキ、ウメ）、及び施設園芸部（露地野菜、施設野菜、花卉、花木）の3部門に分かれ業務を行っている。水田は5haで、早期、普通期水稲の栽培を行い、特にライスセンターは一度に2ha分の籾を乾燥処理できる施設である。

住吉牧場は宮崎大学農学部から北東へ24kmの極めて平坦な場所に位置し、家畜部、圃場部、加工部の3部門を8名の技官で管理していた。

青島熱帯植物園小温室には植物が植えられているが、暖房費が予算に計上されず植物は瀕死の状態にあった。園内は改装中ということもあり、新しい青島熱帯植物園に期待したいと思う。

### 岩切農場、外蘭農場及びファレノプシス農家

マンゴー栽培については2農場を見学した。岩切農場はビニルハウス20aにアーウインを280本栽培し、1本当たり30～40個の収穫が可能ということであった。最低温度を8℃に保ち、剪定作業は収穫後7月末に行っていた。外蘭農場（法人）は3,419㎡のガラス温室内で栽培しており、アーウインの糖度17～18°を目標に熱心な管理作業が行われていた。直根の伸びが結実に大きな影響を及ぼすため、小型ショベルで断根作業の後、ルートラップ（不織布鉢）に移植していた。

ファレノプシス栽培農家は、ガラス温室内でハワイより輸入した稚苗の育成及び開花株の出荷準備が行われていた。開花した株を組み合わせて化粧鉢に移植する作業では、特に支柱に誘引する工程に気を配っていた。

### 感想

今回の各研修地では、それぞれの地で課題をもうけ、それが改善されつつあるということを知り大変参考になった。メロン栽培は、マルハナバチ導入により交配作業の省力化が実現し、またそれは養蜂農家より借りられることからコスト低減につながる手段だと思った。宮崎県のマンゴー栽培では鉢上げ等で、安定した生産を得るための工夫がなされていた。今後この研修を機会に情報交換を行い、省力化等諸問題について取り組んでいきたいと思う。